

## ～ClassPad.net のテキストふせん・授業支援機能を活用する～

原文を根拠に人物を評価し、『史記』「鴻門之会」を再構成する授業  
重要な句法を根拠に漢文を読み、登場人物の判断を論証的に考察する。

### 【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：既習内容を前提に、原文を根拠とした論証的読解へと学習を発展させる。正解確認型から、解釈構築型の学びへ転換する。

生徒向けの目標：句形を根拠にした書き下し・解釈を習得し、原文を通して人物評価をして他者の解釈と比較し、自説を修正できるようになる。

### 【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・授業準備の時短／効率化：デジタルノートの事前作成により板書や配布の時間を削減し、生徒活動中心の授業を実現できる。
- ・生徒の理解促進：マーカーやふせんへの書き込みで句形と意味の対応を視覚化し、書き下し・口語訳・根拠を関連付けて構造的な理解を促すことができる。
- ・協働学習促進：共有・コメント機能により解釈の比較検討が容易となり、意味分布の可視化を通して対話的議論と学びの更新を図ることができる。

## 授業の流れ

## ClassPad.net での操作

### step1

#### 【目標】

- ・項羽はなぜ劉邦を殺さなかったのかを考える。
- ・原文の記述と句法を根拠に、意図の危機感の正体を論証する。

### 目的・概要の説明

「項羽はなぜ劉邦を殺さなかったのか」を中心課題に据えることを伝える。知識確認ではなく、原文を用いた論証が目的であることを共有する。

### step2

#### 【本文を色分けする】

- ・赤：項羽の判断
- ・青：沛公（劉邦）の判断
- ・緑：張良・樊噲など周囲の介入
- ・黄：句形上における重要箇所

### 再読と要素の可視化

「なぜ殺さなかったのか」の根拠を示す要素として、本文が書かれたテキストふせんと教科書を交互に確認し、次の色分けてマーキングさせる。

- 赤：項羽の判断
- 青：劉邦側の策略
- 緑：張良・樊噲など周囲の介入
- 黄：句形上の重要箇所

教師は本文を入力したテキストふせんを全員に配信し、赤・青・緑・黄の色分けルールを画面上で提示する。マーキングしたテキストふせんを提出させ、生徒のマーキング状況を一覧で確認し、必要に応じて特定の画面を投影して助言する。

### step3

【須羽が劉邦を殺さなかった根拠は？】

なぜ須羽が沛公（劉邦）の殺害を思いとどまったかを知るヒントを探す。

- ① 原文を引用する
  - ② 注目した句形を述べる
  - ③ そこから言えることをまとめる
- ↓  
これを2枚作る

### 根拠を記載したふせんの作成

生徒各自でテキストふせんを用いて、原文引用、注目した句形、そこから言えることをまとめさせる。これを異なる文章中の箇所について2回行う。

教師は「原文引用・句形・言えること」のふせんを配布し、提出BOXを作成して作成物を回収する。記述の良い例をその場で共有し、記入方法のモデルを示して水準をそろえる。

### step4

【グループ議論】

・グループ内で根拠をまとめたふせんを持ち寄り、最も説得力のある根拠ふせんを2つ選ぶ。

・他者のふせんに必ず一回はコメントをして、解釈の共通点・相違点を書き出す。

### 協働学習（比較・総合評価）

グループでカードを持ち寄り、最も説得力のある根拠を2つ選ばせる。他者のふせんに必ず一回はコメントを書かせ、解釈の共通点・相違点を言語化させる。

教師は回収したふせんをグループごとに共有設定し、閲覧とコメントを可能にする。相互コメントの状況を確認し、必要に応じてグループ内で選ばれたふせんを投影して比較の視点を示す。

### step5

【クラス討論の準備】

step4で選んだ根拠2つを2枚のテキストふせんにそれぞれ、主張と反論想定を共に書く。書いたら先生に提出する。

### 論証ライティング

step4で選んだ根拠2つを2枚のテキストふせんにそれぞれ、主張と反論想定と共に書く。書いたら教師側に提出させ、電子黒板などに投影する。

教師は主張と反論想定を加えた論証用テンプレートを配布し、生徒に入力させる。提出されたふせんを電子黒板に投影し、原文引用の適否や論理構成について助言する。

### step6

【グループ化と討議】

・投影された根拠をまとめたふせんを見比べる。

↓  
・似ている根拠・主張のふせんを見出し、先生に伝える。

↓  
・どの根拠・主張が正しそうかをクラスで討議する。

### 主張のグループ化と討議

投影されたテキストふせんを見比べさせ、似ている根拠・主張のふせんを見出してもらい、教師が並べ替えてまとめる。その後、どの根拠・主張が正しそうかをクラスで討議する。

教師は投影されたふせんを画面上でドラッグして並び替え、類似する主張ごとに配置し見出しふせんで分類する。整理した画面を再共有し、討議の資料として固定表示する。

### step7

【結論投票】

・グループ化した根拠・主張ごとに先生が色を指定する。

↓  
・討議後に自分と考えが最も近かったグループの色と同じ色のテキストふせんを提出する。

### 結論投票

グループ化した根拠・主張ごとに教師が色を指定し、討議後に自分と考えが最も近かったグループの色と同じ色のテキストふせんを提出させる。これを電子黒板等に投影することで、視覚的にどの意見が一番有力かを捉えることができる。

教師はグループごとに色を指定したテキストふせんを配布し、生徒に意思表示として提出させる。集まった色ふせんを一覧表示して電子黒板に投影し、分布を確認して結果画面を保存する。